



## 子どもの思いを受け止める「柔軟さ」を大切に

岡山市国公立園長会長

岡山市立今認定こども園長 鶴海 明子

岡山市で最初の幼保連携型認定こども園が開園してから今年で7年目を迎えます。私自身、認定こども園で勤務するのは5年目となりますが、幼稚園教諭としての経験しかなかった私にとって、0歳から子どもたちとのかかわりは新たな学びの連続です。そして、これまで当たり前と思っていた考えを見直さなければならない場面に遭遇することが多々あります。このような状況の中で改めて感じるのは、「こうあらねば」という考えをもたず、柔軟な対応をすることの大切さです。この柔軟さは子どもとのかかわりにとっても大事なことだと思います。

私が教職について1年目の頃、クラスの子どもたちをしっかりと指導しなければというあせりから、つい子どもに自分の考えを押しつけようとしていました。そのため、クラスで振り返りの話をする時も自分のペースで話を進めてしまい、子どもたちはなかなか話に集中してくれませんでした。「なぜ私の話をきちんと聞いてくれないのかな？」と悩む私に先輩の先生は、「子どもの思いをもっと大切にしてください」と教えていただきました。

ある日、振り返りの話合いの中で、プール遊びでどんなことが楽しかったかが話題になりました。一人の子どもが「こうやって足をバタバタさせたのが楽しかった」と言って、足をバタバタと動かして見せました。すると側にいた子どもも足を動かし始めました。その時の子どもの表情がとても生き生きとしていたので、「みんなもやってみようか」と声をかけると、喜んで思い思いに体を動かして泳ぎを表現し始めました。これまで、きちんと座って話を聞かせることばかり考えて、子どもが何を伝えたいかということに目を向けていなかったことに気付かされました。子どもたちの楽しそうな表情を見て、自分の思いを押し付け過ぎていたことを反省しました。そして、教師にとって子どもの思いを受け止める柔軟さが大切であることを学びました。この時の子どもたちの生き生きとした表情は今でも忘れられません。

今、子どもを取り巻く環境はめまぐるしく変化し、これからの子どもたちは私たちが予想もできないような社会を生きていこうと言われていきます。情報化やグローバル化が進み人口知能の進展により働き方も大きく変わることが予想されます。こうした社会を生き抜いていくために求められるものは、受け身でなく、自分自身が主体となって問題を解決する力です。平成29年3月31日に公示された幼稚園教育要領、保育所保育指針、幼保連携型認定こども園教育・保育要領には、「幼児期に育みたい資質・能力」が示されましたが、この資質能力は教師が教え込むものではなく、子ども主体の遊びや生活を通じて育まれるものとされています。子どもは遊びの中で様々なことに気付き、「こうしてみたい」という思いをもち試行錯誤していきますが、この姿を教師がしっかりと受け止め、支えていくことが大切です。その時に忘れてはならないことは、子どもの思いを柔軟に受け止めていく教師の姿勢ではないでしょうか。

# 令和3年度 教育課題別研究を紹介します！

「令和3年度教育課題別研究」では、令和3年3月に発行した『「カリキュラム・マネジメント」の充実を目指して』で紹介している実践をもとに、研究協力校である芳田小学校、福田中学校の「カリキュラム・マネジメント」の充実に向けた取組の更なる向上を目指して研究を進めています。

ここでは、それぞれの研究協力校の実践を紹介します。



**4 研究主任とカリキュラム・マネジメント**

研究主任は教育課程の学習における指揮者  
目指す子供像の実現のために校内研究体制を作り、導く！

今年度は、教科等横断的な視点に立った資質・能力の育成を、国語科「話すこと・聞くこと」を中心に、「各教科等間の活用・発揮」と「学年間の活用・発揮」2つのつながりから捉えて校内研究に取り組んでいます。

## 【事前の校内研修】

全教職員に、校内研究が学校改善にどのようにつながるのか、学校教育目標に結び付けて理解することができるように、公開授業前に校内研修を実施しています。

研究部が、目指す子供像、教科間や学年間のつながりを説明し、授業参観の視点を共有します。



【Meetを使用した校内研修】

## 【公開授業】

公開授業では、授業中の子供の姿から研究のねらいや授業のねらいが達成されているかを見取ります。

その後の研究協議では、「目指す子供像の実現のための授業改善」という視点で協議を行っています。



【研究協議の様子】



**5 教員とカリキュラム・マネジメント**

教員は子供の資質・能力の育成の担い手  
「学習指導」と「学習評価」は学校の教育活動の根幹

今年度は、学校の教育活動の根幹である「学習指導」と「学習評価」の一体化を目指すべく、評価計画の段階から、「表現力」の育成を図る取組を行っています。

## 【指導と評価の一体化「評価計画」】

次	時	主な学習活動・内容	評価の観点			評価規準及び評価方法
			知・技	思	徳	
一、水中の物体にはたらく力	1	水圧は水の重さによって生じ、深さが深いほど大きく、あらゆる向きにはたらくことを理解する。	○			水圧は水の重さによって生じ、深さが深いほど大きく、あらゆる向きにはたらくことを理解し、身の周りの現象にも適用して理解している。
	2	物体によって水に押くものや沈むものがあることを示し、水中の物体にはたらくような力がはたらくことを理解する。		○		水中にある物体には、上向き力がはたらくことを見いだしている。【作業観察】
	3	水中にある物体には、物体にはたらく水圧の差から浮力が生じることを理解する。	○		○	水中にある物体には、物体にはたらく水圧の差から浮力が生じることを理解し、身のまわりの現象にも適用していることを理解している。【記述分析】
二、力の合成・分解	1	2つの力の合成力を見いだして課題を設定する。	○		○	2つの力を合わせて、合力と向きを引く角を求めている。【記述分析】
	2	2つの力の合力を作用し、作用線を示すことができる。		○		角度を測って2つの力とその合力の関係を理解し、作業を行うことで合力を求め、説明することができる。
	3	3力のつり合いについて理解し、説明する。	○			力の合成や合力の関係を、各力の求め方を理解している。【作業観察】
三、力のはたらく	4	1つの力を2つに分けて考え、作用し、合力について理解する。		○		力を任意の2方向に分解できることを確認することで理解できる。【記述分析】
	1	【本時】これまでの学習を生かして、日常生活で使っている力について説明している。		○	○	今までの学習を振り返り、日常生活の中で使っている力について説明し、自分の考えを深めることができる。【記述分析】

## 【授業改善 ～第3学年理科「力のつり合いと合成・分解」～】

記述分析や行動観察を通して生徒の学習状況から、「目に見えない力の規則性を見出すことに難しさがある」という実態を把握できたので、できるだけ日常生活における力の合成の場面を想起出来るような学習活動を設定しました。



【授業の様子 上:二次1時, 下:二次4時】

# はじまっています「通信型研修」

教育研究研修センターでは、令和3年度より教職員研修の受講がより効率的・効果的なものとなるよう、一部の研修に「通信型研修」を取り入れて実施しています。ここでは、通信型研修を取り入れた研修講座について紹介します。

## eラーニング

「eラーニング」とは一定期間内に、動画資料を所属校にて視聴しながら受講する研修です。勤務時間内の自分の都合のよい時間に動画を止めたり、戻したりして、何度も繰り返し見ることができ、自分のペースに応じて受講できます。

### 【受講者の声】

- ・eラーニングの場合、聞き逃したところを聞き直しができたり、一時停止をして重要なところをメモすることができたりするため、研修内容が理解しやすかった。
- ・動画を止めて考える演習では、理解する時間を十分に取ることができたのが良かった。

新任教務主任研修講座【第2日】



動画を一時停止させてメモをとっている様子

## 遠隔研修

「遠隔研修」とは、指定された時間にビデオ会議アプリ「Google Meet」を用いて所属校にて受講する研修です。内容によっては、集合研修に近い形で講師と受講者、または受講者同士のコミュニケーションを図ることも可能です。

### 【受講者の声】

- ・Meetのチャット機能を使って講師に質問ができたので、内容についてよく理解できた。他の受講者と協議をすることで、自分の考えを伝え、様々な考えを知ることができ、学びの深まりを感じた。



各所属校の受講者と協議やチャットをしている様子



チャットによる受講者からの質問に答える藤野視学官

小学校社会研修講座【授業づくりの応用】

中学校社会研修講座【授業づくりの応用】

## 「通信型研修」Q&A

### 研修時間は？

従来の集合研修と同様、勤務時間内に受講します。

### 使用する機器は？

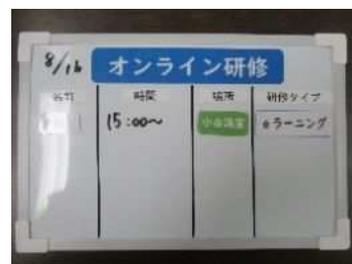
学校に配付されているChromebook端末を使用します。

### ログイン方法は？

各学校に送付された「研修講座受講のためのアカウント」を使用します。

### 研修場所や研修を受講する環境整備は？

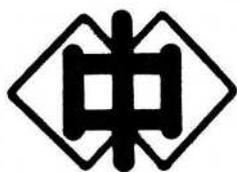
Chromebookが使用できる環境にある部屋を使用します。学校ごとに「研修中」の掲示物（写真左）や、オンライン研修を受講している人が分かるボード（写真右）を作成するなど、研修の受講に専念できる環境を工夫されています。



### 準備物は？

配付資料は「Classroom」とC4th「教育研究研修センター」書庫に研修の前日までに掲載されます。印刷する場合は、校務用パソコンでC4th書庫から研修資料をダウンロードします。※これ以外の方法で実施する研修もあります。

## 1 はじめに



本校は、岡山市南部に位置し、田園風景が広がる穏やかな環境に恵まれています。また、江戸時代から興除村としてのコミュニティがあり、地元への帰属意識や住民同士のつながりも強く、三世同居の家庭も比較的多い地域です。保護者・地域の方々も学校教育に対する関心が高く、学校園の教育活動に対して温かく見守り、協力してくださっています。そういった中で、生徒たちは地域との関わりを大切にしながら、地域や学校に誇りを持って、穏やかに生活しています。

## 2 本校の取組について

本校では、「凡事徹底」を合い言葉に、当たり前の方が確実にできる生徒、生活の基礎基本をしっかり身につけ、社会に出ても活躍できる力の育成を目指しています。その柱として、「ライフライン」と呼ばれる5つの取組を生徒指導の重点に設定しています。自分たちの手で、毎日の落ち着いた生活基盤を整え、より充実した学校生活を送るための取組です。将来の地域の担い手としての自治能力も培ってほしいと願っています。



「ライフライン」  
廊下にも掲示しています

## 3 生徒指導の重点(「ライフライン」)を中心とした取組の概要

### ◇あいさつ

授業、委員会活動、部活動など、多くの場面でのあいさつを励行しています。授業では「先言後礼(あいさつの言葉を先に言ってから、礼をする)」を合い言葉に、爽やかで気持ちのいいあいさつを心がけています。生徒昇降口横の通路を「あいさつ廊下」と名付け、普段からのあいさつも大切にしています。



始業前、「心を洗う」取組中

### ◇心を洗う・マイタイム

毎日、文章の書き写しと朝読書を行っています。書き写しは、様々な人の文章(200字程度)を原稿用紙に書き写す取組です。語彙を増やすこと、多くの人々の様々な考えに触れ、ものの見方を広げることを目的としています。始業時刻は8時30分ですが、ほとんどの生徒が始業の10分前には着席して、自主的に取り組んでいます。

### ◇着席チャイム

次の授業の準備を整えて、余裕を持って授業に臨む姿勢を育てます。授業開始のチャイムを自分の席に着いた状態で聞くというものです。落ち着いて授業を受ける第一歩として、生徒たちに定着しています。生徒だけでなく、教職員も、授業を大切にするという鉄則を日々確認しています。



無言清掃に取り組んでいます

### ◇心を磨く・無言清掃

無言清掃を実施している県外の学校への視察を行い、本校に取り入れました。毎日使う教室等、学校環境を大切にすること、きれいに保つこと、一日の終わりに自分自身を見つめ直すことを目標とした取組です。来校者から校内の環境についてお褒めの言葉をいただくことも多いのですが、それは、生徒たち自身が、地道な取組によって作り上げているものです。

### ◇平等上品給食

平等に配膳し、マナーを守って和やかな食事の時間を大切にしています。食に関しては、2学期末に「お弁当の日」を設定し、自分自身でバランスのよい献立を考えてお弁当をつくることなどを通じて、食習慣・食文化への理解を深める取組も行っています。



「お弁当の日」発表会の様子

## 4 今後の課題等

興除中学校区では、保育園・認定こども園・小学校・中学校の連携教育を推進しています。平成30年度から「興除中学校区 輝く未来へのプログラム」という学校園連携のマニュアルを作成し、発達段階に応じた、学習・生活についての共通した取組を行っています。本校での取組を推進すると同時に、各校園と連携した取組も更に充実させていきたいと考えています。

